平成25年度「ＧＫＰ広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体の名称 個人	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-mail】 中村　亮平 電話　090-5591-9921 E-mail　fwke0655@mb.infoweb.ne.jp
代表者氏名	
（他薦の場合）上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-mail】

部門名 電子媒体部門	事例名 ホームページ　“生態系接続システム　プランクトンプラント” http://homepage2.nifty.com/nakamuraRyouhei/PP.htm

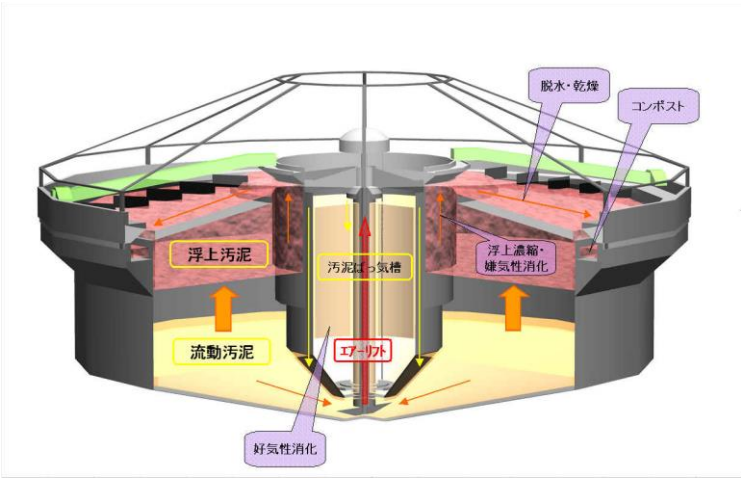
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入してください）

下水道公社水質担当職員、浄化槽検査員の職歴を持つ者です。これまで汚水処理施設の現場を多く見てきました。その中で得られた汚水処理の新たな方向性のアイデアを個人のホームページで紹介しています。これは、汚水を生態系資源として扱い、自然生態系の活性化を図ろうとするものです。仕事柄、下水処理場、農集、浄化槽等の汚水処理施設を多く見る機会があり、現場の様々な事例を集めることができる立場にあります。新たな視点で汚水処理を見ることができるので、新しい発見はとても多いです。
それをホームページにまとめています。

下水により運ばれる物質量は膨大な量になります。これを廃棄物として捨てるのではなく、生態系の循環に組み入れることができれば、生態系に循環する物質量そのものを大幅に増大させることができ、水産資源の増大等相当な効果が期待できます。このように大規模で積極的に環境を作り出すことは、恐らく環境技術に全く新しい分野を作り出すことになり、海に囲まれ自然豊かで淡水量も多い国土を持ち、人口密度が高く下水道網が整備されている日本は、これを行なうには最も適している国だと思います。これに日本の持つ下水道や浄化槽の高い技術を使えば、日本独自の環境技術として発展させることができるはずです。
また、自然と共生するこころや、魚食文化を持つ日本人にはピッタリとマッチするのではないでしょうか。

ホームページでは、生態系接続の具体的な方法として、浄化槽の技術を基にした汚泥処分方法（汚泥の出ない浄化槽、コンポスト浄化槽）を提示し、これをもとに海岸藻場への施肥をおこなう“海岸施肥プラント”のアイデアを載せています。これは、現在日本の各地の海岸で進んでいる磯焼け現象の対策になると思います。これをアマモ場回復の活動を行なっている NPO の方に見ていただいたところ、今後の活動の参考にしたいとのお返事を頂きました。いろいろな人にこのホームページを見ていただきましたが、特に興味を示してもらえるのは、このように実際に磯焼け対策取り組んでいる方や、汚水処理の現場の方など直接現場に携わっている方々でした。こうした方々の行動こそが、実現への駆動力になるものと思います。

この他にも、汚水処理施設放流先の生態系の状態や施設に発生する各種のプランクトン等の調査、実験なども行なっており、続々と新発見が出てきています。新たな成果や発見がまとまり次第、逐次ホームページに UP していく予定です。



海岸施肥プラント汚泥分解タンク

浄化センター放流先海岸の藻場

エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）

下水道の新たな役割として、生態系活性化を提案しています。これにより、具体的な価値として、国土の生物多様性や水産資源の確保、新たな観光資源の開発などの見込め、これらに付随する環境プラント産業での仕事、雇用の創出の効果も期待できます。
個人のホームページということで、広報の力は小さいものですが、会社や組織に縛られること無く、内容を自由に作成、更新ができ柔軟かつ速く動くことができるため、全く新しい分野を切り開いていくには意外と適しているかもしれません。特にスピードの点においては、アイデアさえあれば個人のホームページが最も早い展開が可能だと思います。

ホームページ作成に当たり留意している点は、事実をそのまま描くこと、誰もが納得できるようにすること、です。眉唾ものだったり、実現性に欠けるのでは、誰も興味を示してくれません。“これなら、もしかしてできるかも”と感じて頂ければ幸いです。